(ハス繁茂域拡大に対する美手連の活動例)

「手賀沼ハス繁茂域抑制を目指した取り組み」

美しい手賀沼を愛する市民の連合会　八鍬雅子

共同研究：千葉県立中央博物館　主任上席研究員　林　紀男さん
協力：東京大学大学院新領域創成科学研究科　教授　山室真澄　さん

手賀沼水環境保全協議会は、2015 年 8 月～9 月にハス群落調査を実施しました。その報告書によれば、群落全体の長さは、縦断方向に 850m、横断方向に 380m、面積は 23.1ha で、2012 年から 3 年間で、縦断方向に 40m（＋5%）、横断方向に 10m（＋3%）拡大し、面積は 1.7ha（＋8%）増加しています。

研究者によれば、ハス群落の拡大はマコモやヒメガマを侵略し、群落内は貧酸素状態となり、その中で棲める生き物は限られてしまいます。また、ヘドロを堆積し浅沼化の原因となっています。

手賀沼水環境保全協議会「ハス群落調査　平成 27 年 9 月」より

美しい手賀沼を愛する市民の連合会は 2013 年から、拡大を抑制するための方法を探るための実験を行ってきました。

2014 年は、水深の深い場所と浅い場所で、10m×10mの刈り取り区と対照区で比較しました。6 月刈り取り後、9 月の検証では、浅い区域はハスの抑制効果がみられるが、深い区域では多数再生長していた。2015 年 8 月 24 日も検証でも、2014 年同様浅い区域でのみ抑制効果が見られました。

2015 年 6 月 19 日、岸に近い浅い区域と群落中央部の深い区域の 2 か所で 10m×10mの刈り取り区と対照区で比較しました。8 月 24 日に検証し、浅い区域は刈り取りの効果がみられましたが、深い区域はハスの立葉が成長し、刈り取り効果は判りませんでした。

次に、ハスの地下茎に穴をあけ水を入れて腐らせる実験をしました。11 月 30 日、柏市岩井新田地先の 20m×20mの区域で一列になり、エンピ・スコップで地下茎を突き刺しました。船で実験区域へ行くのは困難であったため、ヘドロ状態の泥地で悪戦苦闘しました。この実験には、県立中央博物館林紀男さん、大津川をきれいにする会、船戸の森の会と美手連運営委員総勢 19 名が参加しました。

11 月 30 日　柏市岩井新田地先で一列になり、泥と悪戦苦闘し、エンピ・スコップで地下茎を突き刺しているところ